

インド・ウッタラカンド州における防災教育の制度化に関する研究

中野 元太

キーワード：防災教育、教育の制度化、フォーマル教育、ノンフォーマル教育、
インフォーマル教育、ウッタラカンド州

1. 研究の背景と目的

防災教育は災害に強い社会を形成する上で重要である。様々な防災教育が様々なステークホルダーによって実施されているが、これらの教育は大きくフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育の三つの形態に大別できる。フォーマル教育とは政府の教育機関がカリキュラムを通じて学校にて行う教育を指し、ノンフォーマル教育とは学校カリキュラムの外で政府の教育機関以外の組織が行う教育を言う。またインフォーマル教育とは日々生活を送る中で無意識的に学ぶことを指している。本研究ではこれら三つの教育形態がどのようにすれば相互作用的に実施可能かを提案することを目的としている。研究対象地として、災害常襲地であり様々な防災教育が行われているインド北部のウッタラカンド州を選定した。

2. 研究手法

本研究では、文献調査、半構造化及び非構造化インタビュー、防災教育の制度化指標（IDRE）、フォーカスグループディスカッションの四つを用いた。筆者は165の項目からなるIDREを本研究を通じて作成した。調査はウッタラカンド州の都市に位置する地区及び農村山に位置する地区の二つを対象に行われた。

3. 結果

調査の結果、防災教育を推進する政策的背景がなくても、教育局によって学校カリキュラムや課外活動、学校教員へのトレーニングの中に防災教育の要素が取り入れられていることが分かった。これらは教育局と州の防災機関や消防局といった防災専門機関との連携・協働によって達成されたものである。一方、学校防災管理や学校の建物の安全性においては課題が見られた。加えて、調査結果から生徒は学校での防災に関する学びを家族へ伝える傾向があることが分かった。また、調査を行った地域では大雨や土壌の表層崩壊を予見する知識が地域内で共有されていることが確認された。

4. 結論

本研究を通じて、三つの防災教育形態の分析アプローチ及び防災教育の制度化に関するフレームワークが提案された。本フレームワークは防災教育の実施、学校における災害リスクマネジメント、ステークホルダーのプラットフォームの三つの視点から説明されている。防災教育を学校カリキュラム、課外活動、学校教員へのトレーニングに取り込んでいくためにはステークホルダー間の連携・協働が必要である。加えて既存の学校管理委員会は地域住民の参加も規定しており、これは学校防災管理を学校管理の中に取り入れるとともに地域の災害への知見を踏まえることにもつながる。また、地域に根付く災害に対する知識が科学的に検証され防災教育に取り入れられることの必要性、そして防災の知識が伝達される上でメディアは重要な役割を果たすことを示した。これらを通じて三つの教育形態が相互作用的に行われることにつながる。また本フレームワークは他の地域においても活用されるべきである。